

Minokamo

# 保里山 育

みのかも

Saloyama Hoiku

## 里山保育で目指すもの

美濃加茂市では

人々が営む田畑や森林

人々が入り出る山・森・川・河原

人々が暮らす場所

これら3つが組み合わされたエリア＝市内全域を  
保育のフィールドとして捉え、  
自然環境に身を置いて、おもいっきり遊ぶことで  
こどもが生まれながら持っている

生きる力を引き出し、これからの時代に必要な

非認知能力を育むことを目指しています。



## 非認知能力とは？

学術的スキルや知能指数(IQ)では測れない、  
好奇心の豊かさやコミュニケーション力、  
目標に向かってやり抜く力、自己肯定感、  
相手を思いやる力などを指します。  
もちろん、読み書きや計算などの  
「認知能力」の獲得も必要ですが、乳幼児期に  
「非認知能力」を育むことは、その後の人生や  
人格形成に大きな影響を与えているといわれています。  
里山保育は、そのような基礎(土台)を築くための  
重要な役割を持っています。

発行：美濃加茂市役所 健康こども部こども未来課  
〒505-0010 岐阜県美濃加茂市健康のまち1丁目 2番地 みのかも健康プラザ2階  
TEL:0574-28-1131 FAX:0574-27-7961

## ③ 子どもの能力を高めるために

里山保育では「非認知能力」を高めるために

右記6つのポイントを掲げ、

こどものための環境づくりを進めています。

同時に、保育士自身も「里山保育」に求められる力を

園同士のつながりや、原体験、学習によって蓄え

市内全域へ広げていくための構造づくりも

行っています。



### 今後の取り組み

関係者、地域の方々や保護者の皆様と連携、協力し、市全体の保育の質を高めていきます。



### 安心感・やすらぎ



自然の中では、静けさや自然音（鳥の鳴き声、風の音など）が心を落ち着かせ、ストレスを軽減します。自然の美しさはこどもたちに安心感を提供し、心の平穏をもたらします。

- 熱中できる時間と場所の選択・提供
- こどものやりたいことを尊重し思いをくみとる

### 五感への刺激



自然環境・動植物から得られる色、音、匂い、触感などは、こどもたちの五感を豊かに刺激します。これらの経験は感覚発達を促し、新しい物事への好奇心を高めます。

- 自然の要素を理解し指摘できる知識
- 保育士も自ら体感し原体験を理解する

### 試行錯誤



自然とは誰も予測不可能な環境です。一筋縄では行かない状況で遊び、学ぶことで、こどもたちは何度もトライ&エラーをして、問題解決能力を身につけていきます。

- 安全な範囲で挑戦できるサポート
- 解決する経験を尊重し適度な距離を保つ

### 挑戦的な遊び



こどもたちは、挑戦的な遊びをする中で、大変さや怖さを体感し、それと同時にリスクを管理する能力・自己効力感を高めます。こういった遊びは、自信の向上にも繋がります。

- リスク対応を学び危険を予知する
- できなくても挑戦する道筋を残し、支える

### 協力・協働



自然環境でのグループ活動は、目標達成のために協力・コミュニケーションが不可欠です。自分一人では解決できない状況や困った状況になったとき、協力しあえる力を養います。

- 協力・協働できる機会の提供および発案
- 必要に応じ、こどもたちへ協力を促す

### 見立て・ごっこ遊び



自然は、どのようでも見立て、ごっこ遊びができるもので溢れています。自然物で自由に想像しながら遊び、世界を広げることで、こどもたちの創造力を高めていきます。

- 想像を引き出す場・素材を用意する
- 保育士も童心に帰り世界を共有する

## ご協力いただいた先生方より



岐阜県立森林文化アカデミー 教授 **萩原・ナバ・裕作**

「こどもたちのあそびを、ないがしろにするコミュニティはやがて衰退する」とは元英国首相の名言。その「あそび」を大切にす抜本的な保育改革を宣言する「里山保育」が全国に先駆けて始まるのは素晴らしいことですね。こどもたちの豊かな遊びを保證できる体制を行政は本当に創れるのか、市民全体でどれだけ本気で取り組めるのか、市の存続をかけた新たな挑戦に大いに期待します。



岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授 **松本信吾**

SDGs時代、私たちには様々な問題が山積しています。そこに立ち向かう最前線が保育だと思っています。それは、こどもたちに知識を与えることではありません。自然の中で遊び込むことで、自然への親しみや畏敬の念を感じると共に、自らがその一員だと感じること。また、大人に決められるのではなく、自ら考え話し合い、遊びや活動を決めていくこと。そのような原体験を積み重ねる里山保育を実現し、日本中に発信してほしいと願っています。



桜花学園大学 保育学部 国際教養こども学科 教授 **Dalrymple 規子**

“さとやまほいく”から、こどもたちは、どんな自分も受け止める、やりたいことをやってみる、思い切り身体を動かし没頭してあそぶ、困難を乗り越えての達成感、高い自己肯定感、もっと知りたい、もっと学びたいという意欲・・・そんな力強いことを体験し、成長します。美濃加茂市の皆さんでこどもたちの育ちを支えるこの取り組みを、応援しています！